



令和5年度

旭川未来会議2030

文化分野テーマ

市民の 文化芸術活動の 促進に向けて

2023年10月24日
文化分野

- ▶旭川市では音楽、美術、舞踊、文学など様々なジャンルの文化芸術活動が行われている
- ▶文化芸術活動には、多くの魅力があり、本市のまちづくりの一端を担っている

文化芸術活動の魅力

- ◇豊かな気持ちになり、生活に生きがいやハリが生まれる
- ◇文化芸術を見る目を養える
- ◇年齢・性別・国境を越えて通じ合う共通言語になる
- ◇技術の向上や人間関係の構築による喜びがある
- ◇歴史や風土を学べる
- ◇社会との接点、交流促進の場となる

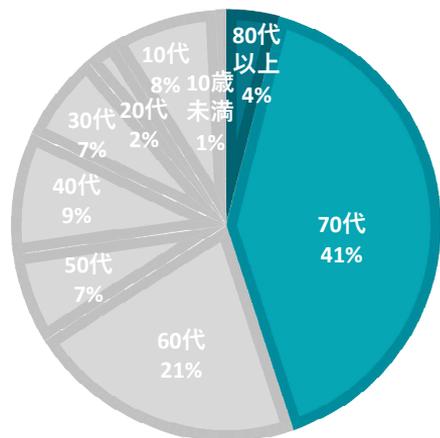
まちづくりに関する取組

- ◇まちなかキャンパスのようなイベント開催で街の賑わいづくりに貢献
- ◇放課後児童クラブで子ども達に囲碁を教える
- ◇学校に行きづらくなっている子と一緒にイラストを描く機会をつくっている
- ◇彫刻サポート隊として、野外彫刻の清掃・点検を実施
- ◇40年以上、街の変遷を定点撮影し資料として記録
- ◇発表会・展示会等の実施（参加者の成長、人材の育成）

《文化芸術団体として》

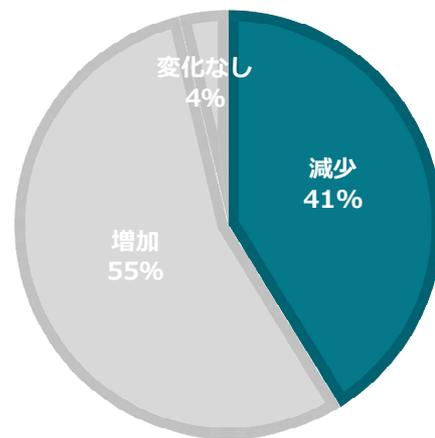
- ▶ 会員の平均年齢が70代以上の文化芸術団体が45% ⇒ **団体の高齢化が進んでいる**
- ▶ 高齢化やコロナ禍の影響で会員数が減少している

会員の平均年齢



【出典】
R3.8
文化芸術団体の活動等への新型コロナウイルスの影響に関するアンケート調査（旭川市教育委員会）

会員数の変化（R2.2⇒R3.5）

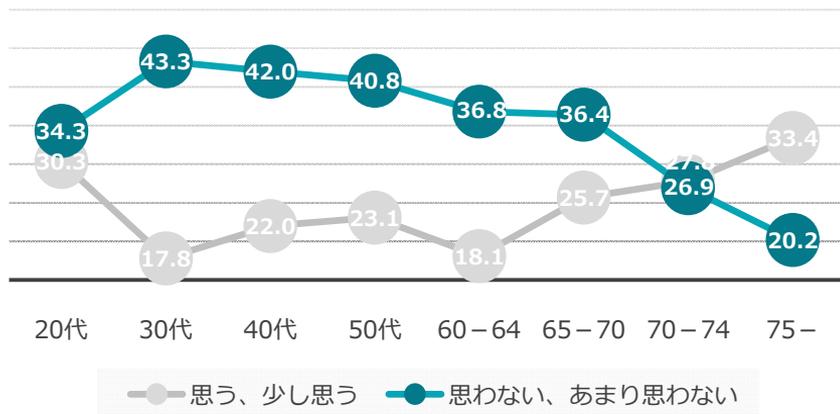


【出典】
R3.8
文化芸術団体の活動等への新型コロナウイルスの影響に関するアンケート調査（旭川市教育委員会）

《一般市民として》

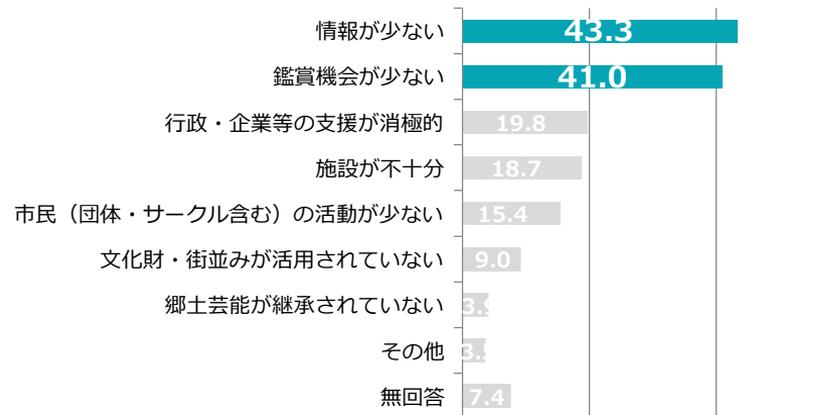
- ▶ 多くの世代で、旭川を文化芸術が盛んな街だと感じられていない
⇒ 文化芸術の情報や鑑賞機会が少ないため！

文化芸術活動が盛んな街か（年齢別）



【出典】
R3.11 旭川市民アンケート調査（旭川市）

市民が文化芸術が盛んだと（あまり）思わない理由



【出典】
R3.11 旭川市民アンケート調査（旭川市）

《問題点のまとめ》



- ▶ 多くの団体で高齢化、会員数の減少が進んでいる
⇒ 将来的な存続の危機に瀕している団体が多い
- ▶ 適切な情報発信が行われておらず、旭川における文化芸術活動が市民に十分に浸透していない
- ▶ 文化芸術活動の鑑賞機会が少ないため、馴染みが薄く、敷居の高いイメージがついている



暮らしに文化、未来に文化



説明

暮らしの中のいつもどこかに文化芸術活動があるように、まずは敷居の高いイメージのある文化芸術活動に気軽に触れられる機会を設けることで、市民の関心を高め、間口を広げる。

その上で、興味を持った人が実際に文化芸術活動を行っていくことを支援すること。

文化芸術活動の促進に向けた取組の方向性



情報発信の強化

【取組例】

◇ 学校へのお出張イベント開催

◇ インスタグラムやTikTokの活用

⇒ 写真や映像等を用いた非日常感、違和感を視覚的に与える演出、広告作成

◇ ギャラリーやイベントの全体像が分かるアートマップの作成

活動の場の充実

【取組例】

◇ 市有施設の設備の補修や、市民が利用しやすい仕組みづくり

⇒ より積極的な発表機会の創出へ

◇ 新規団体・小さな団体でも利用しやすい、発表施設の新設

◇ 様々なジャンルの取組を紹介する場の創設

魅力を伝える工夫

【取組例】

- ◇ 作品やイベントの制作過程を開示、体験してもらうワークショップの実施
- ◇ 各々の文化芸術の魅力の再発見
- ◇ 作品の見方、聞き方などのポイントを解説する仕組み・機会の創出

文化芸術のコラボ促進

【取組例】

- ◇ 他ジャンルとのコラボイベントの計画的実施
- ◇ 未来会議のような他ジャンルの文化芸術活動団体が集まり情報やアイデアを交換し合う場の創設
- ◇ 参加している文化活動のジャンル毎のバッジの配付

「市民芸術マルシェ（仮）」の開催

◆実施内容

- ・音楽、ダンス、演劇、書道、写真、囲碁など多ジャンルの団体と市の共同による参加者体験型のワークショップ、発表、展示などを実施。
⇒旭川の歴史文化を知り、異文化、異世代交流ができる場とする。

◆ターゲット

- ・特定のターゲットを絞らず、**道行く人たちが自由に参加できる**ようにする一方で、若年層の参加促進のため、学校内での出張開催や運営への学生参入を呼びかける。

◆イベントを彩る工夫

- ・旭川駅周辺や買物公園などで開催し、出展者ブースを中心に露店も出して気軽に参加してもらえようにする。
- ・プロジェクションマッピングや大型ビジョンを使用し、イベントの顔となる駅前スペースをトータルインスタレーションのような一つの作品として関心を惹きつけられるような演出を行う。
- ・買物公園を漫画ストリートとして、自由に絵が描けるようにする。

「市民芸術マルシェ（仮）」の開催

◆効果

- ・全ての人々が自由に様々なジャンルの文化芸術活動に参加できる機会となる。

STEP 1 体験を通じて沢山の人に活動の楽しさが共有される。

STEP 2 「馴染みが薄く、敷居が高い」というイメージが打破される。

STEP 3 文化芸術活動への理解促進や参加者の増加につながる。

◆留意事項

- ・イベント開催の機運や実施体制の構築、財源確保といった諸条件が整わずして、構想の実現は困難。

⇒まずはこれらの要素を一部でも加えたコラボイベントの開催へ

⇒継続開催していくなかで、この構想の将来的な実現を目指す

- ・実施に当たっては、先ずはまなびピアなど既存の取組への組み入れや旭川市芸術週間のような形での他ジャンル連携イベントの開催といったスモールスタートを検討する。
- ・一部で盛り上がるのではなく、社会参加が難しいような人も含めて、全員が参加しやすいものとなるように配慮する。
- ・本構想で文化芸術に興味を持った後、実際に活動に参加することを促すための金銭的支援、活動場所の整備も必要。

市民の文化芸術活動促進のために必要なこと

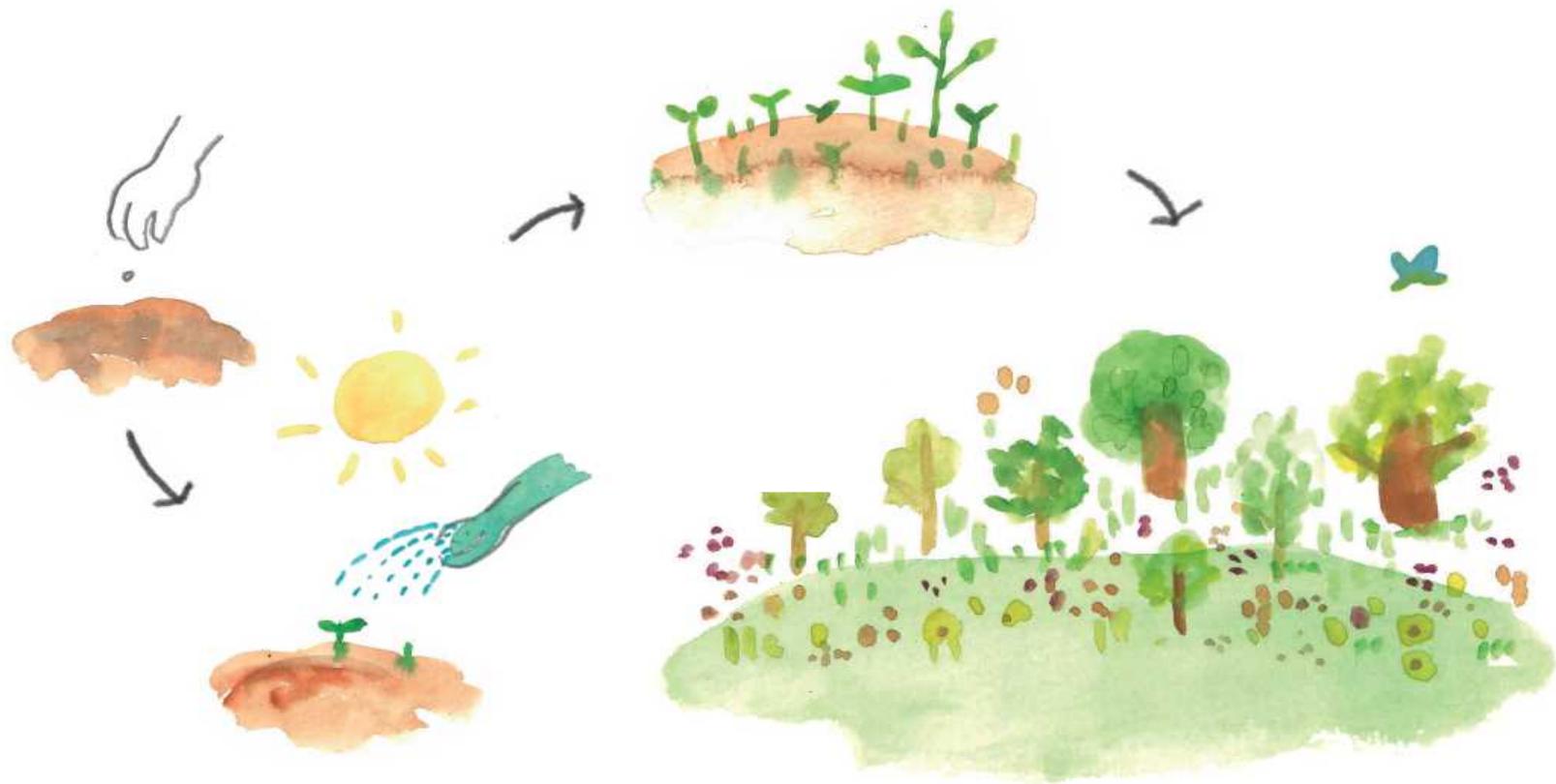
文化芸術に馴染みの薄い市民との接点を持ち、老若男女、国籍を越えた交流を生むこと。そのために、文化芸術に関わる官民の団体・個人が以下の4つの方向性でそれぞれ取組を進めること。

- ①情報発信の強化 ②活動の場の充実 ③魅力を伝える工夫 ④文化芸術のコラボ促進

旭川未来会議（文化分野）で実行する具体的取組

「市民芸術マルシェ（仮）」の開催

- ①まずは複数ジャンル協働のコラボイベントとすることをベースに、今回描いた構想のうち、実現可能な要素を取り入れながら具体的企画を作成し、2030年までの初回開催を実現する。
- ②開催回数を重ねることで、実績を積み上げ、協力者の輪を広げていくことにより、将来的な構想の完全実現を目指す。



文化芸術の未来の芽を、街全体が大切に育てていく
そんな日常があったらいいな…

文化分野参加者

イラスト制作	あべ みちこ (よつば舎)	竹中 英泰 (日本棋院旭川支部)
	小沢 和雄 (旭川写真連盟)	田中 楓 ※公募参加者 (北海道旭川教育大学旭川校 美術分野専攻)
	佐藤 淳 (旭川明成高校吹奏楽部)	発表者 野口 博人 ※公募参加者 (演劇集団シベリア基地代表)
	佐藤 真由美 (HAPPY DANCE STUDIO)	東方 鳳山 (旭川書道連盟)
発表者	柴田 望 (詩誌フラジャイル主宰)	山田 雅紘 (箏曲)

会議経過

日付	内容
6月21日	第1回会議「文化芸術活動の魅力と人づくり, 街づくりに関する取組とは?」
7月28日	第2回会議「2030年までに実現させたい文化芸術活動の未来像」
8月31日	第3回会議「未来像の実現に向けて解決すべき課題、取組の方向性」
10月4日	第4回会議「報告会資料作成」

